

特集2

2019年2月13日 新春トップセミナー



開会挨拶

(一社) 生産技術振興協会 理事長 堀池 寛

みなさまこんにちは。本日は定員を超える多くの方々にご参加いただき誠にありがとうございます。

生産技術振興協会は、大阪大学等の研究機関と関西を中心とする産業界との協力により、科学技術の創出を通して産業技術の発展に寄与することを目的に、昭和24年1月31日に松下幸之助氏の肝いりで設立されました。

同時に季刊誌「生産と技術」が創刊され、昭和61年に事業企画委員会、平成22年にはアライアンス委員会が設置されました。海外論文発表奨励事業や海外講師講演会奨励事業やハイテク推進セミナーやフレンドシップサロンなどその後いろいろと活動を続けてきております。その中で、本セミナー新春トップセミナーは、大阪大学等の研究者と企業経営者の交流・情報交換の場として毎年新春の時期に開催させていただいております。研究者と企業経営者が一堂に集まり最新技術について議論することは大変意義の深いことだと思います。今週の日経新聞にパナソニックの津賀社長がパナソニックはものづくりメーカーをやめる。日立の東原社長は、製造業は日本から無くなる。と書いておられて、危機感を覚えました。

私は日本原子力研究所というところに17年間在籍しております大きな実験装置をつくる仕事をしておりました。その時に新しい技術や研究が切っても切れない縁がありました。例えば、三菱重工には作れて日立には作れない。東芝だったら作れるけど三菱には作れない。ということがたくさんあり、製造技術というところまで掘り下げないと新しい性能を持ったものはなかなか出来ないということを経験してきました。

産業界の製造技術と大学の工学部や理学部の最新研究が手に手を携えて新しい領域を切り開いていくというのは今後ますます重要になっていくと考えます。

本日は大阪大学理事の小川先生を始め多くの先生方がご出席いただいておりますので、当協会を通じてご議論いただき今後の産業界のために尽くしていただければ当協会の目的でもあり大変うれしいことだと思います。

以上を持って簡単ではございますが開会の挨拶とさせていただきます。